



園だより

しもつき
11月(霜月)号

令和7年10月31日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長 伊藤栄司



<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

はらぺこあおむし

園長 伊藤 栄司

先月の21日から読書週間が始まりました。読書週間は1947年、戦後間もないころ「読書の力によって平和な文化国家を作ろう」の決意のもと、出版社・書店・公共図書館等が中心となって始められました。10月下旬に設定されたのは2回目からで、文化の日(11月3日)が入る2週間と定められています。

園ではできるだけ本に親しんで欲しいとの願いから、絵本の貸し出しを毎週行っています。運動会も終わり、いよいよ読書の秋到来です。保護者の皆様も一緒に、読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

エリック・カールさん

ご存じない方もいらっしゃるかと思いますが、代表作の「はらぺこあおむし」はどなたも一度は読んだことがあるのではないかでしょう。ニスを下塗りした薄紙に指や筆で色をつけた色紙を切抜き、貼りつけていく「コラージュ」の手法が特徴の絵本作家です。鮮やかな色彩感覚によって「絵本の魔術師」とも言われています。発表した絵本は40作以上にのぼり、代表作である『はらぺこあおむし』は70以上の言語に翻訳されています。

はらぺこあおむし

お話をとても簡単で、葉っぱの上で生まれた青虫が日曜日から餌を探し始めるところからスタートします。月曜日にはリンゴ、火曜日にはナシと次々に食べていきます。やがてケーキやチーズを食べておなかが痛くなってしまいます。でも、次の日にははっぱをたくさん食べて元気になります。やがて、さなぎになり綺麗な蝶になるというストーリーです。

食べる物の数に合わせてページの大きさが変化したり、途中でおなかが痛くなって心配したりするなど、子どもたちを楽しませてくれるアイデアが満載です。最後に大きな絵本いっぱいに広がる美しい蝶の姿は、何度も読み聞かせをしても「わあきれい」「すごい」と声が聞こえます。

日本とのつながりも

実は、もう一つ「はらぺこあおむし」の特徴に青虫が食べたと思われる丸い穴があります。作者は、事務用品のパンチで穴を開ける作業中に「虫が本を食べる」というアイデアが浮かんだそうです。しかし、穴を開けたり、少しずつページの幅が増えていったりする複雑な仕掛け絵本を作るのは難しく、アメリカでは引き受けた出版社が見つからなかったようです。そこで、日本の会社が製本を引き受けました。初版本にはmade in Japanと書かれているそうですが、実物を見たことはありません。

額縁に入れて飾っても遜色ないほど芸術性の高い絵画と成長の喜びや生き抜くたくましさ等を感じさせてくれるストーリーです。エリックカールさんの他の作品も含め、是非、子どもと一緒にお楽しみください。

※エリックカールさんは令和3年5月23日に91歳で他界されました。